

コミュニティ・スクールだより



第29号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年1月12日

学校と地域が連携・協働することによる効果

～名張中学校 コミュニティ・スクール成功に向けて～

学校運営への参画に向けて～学校運営協議会の充実～

名張中学校では、学校運営協議会の活性化及びコミュニティ・スクール(以下、CS)の推進・充実に向けて、学校運営協議会委員と教職員が一体になり、当事者意識を持った連携・協働による工夫を凝らした運営や取組が行われています。

【第1回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①担当教員Aから、名張中学校や生徒の様子についてDVDによる映像と、「名中愛」についての説明。
- ②教頭から、昨年度のCSの取組について報告。
- ③校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。
- ④担当教員Bから、本年度の活動について、CSの年間計画表(下表)をもとに説明した後、協議。



資料だけでなく
ICTをフルに活用

校長と会長・副会長が事前
打合せをしっかりと行う。

年 月	目 的	内 容	その他	学校行事
4月				始業式・入学式
5月	第1回CS協議会 (22日 14:00～)	① 校長の挨拶について。 ② 学校運営協議会委員の紹介について。 ③ 校長から、本年度の学校経営計画について。 ④ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ⑤ その他。	校長挨拶(録音)。 ① 校長から、本年度の学校経営計画について。 ② 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ③ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ④ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ⑤ その他。	始業式・入学式
6月				修学旅行(3年)
7月				修学旅行(3年)
8月				修学旅行(3年)
9月	放課後寺子屋	① 趣向の紹介。 ② 趣向の紹介。 ③ 趣向の紹介。	放課後寺子屋	放課後寺子屋
10月				文化祭(2年)
11月	第2回CS協議会 (15日 19:00～)	① 校長の挨拶について。 ② 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ③ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ④ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ⑤ その他。	校長挨拶(録音)。 ① 校長から、本年度の学校経営計画について。 ② 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ③ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ④ 校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。 ⑤ その他。	文化祭(2年)
12月				修学旅行(3年)
1月				修学旅行(3年)
2月				修学旅行(3年)
3月				修学旅行(3年)

一目でわかる
工夫された
CS年間計画表

【第2回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①校長から、パワーポイント(44スライド)で学校の現状報告。
- ②担当教員Bから、本年度のCSの活動状況について報告。
 - 放課後寺子屋について
 - ・取組の現状と成果、課題についてスライドで説明。
 - ・参加生徒へのインタビュー動画を視聴。
 - 防災訓練(11月20日)の企画について
 - ・在宅時での災害を仮定した訓練の実施について説明。
- ③来年度のCSに向けて
 - 校長から本年度の成果報告と課題提起。
 - 具体的な取組や支援について、一歩前に進んだ活動になるように協議。



校長だけでなく、教職員と
地域住民が、顔の見える関
係づくりを積極的に行う。

「今年できるところからやっつけていこう！」
という意見が出されました。

《名張中学校 放課後寺子屋》

めざす学校像である「どの子も生き生きと輝く学校」「なにげない毎日が幸せと感じることが出来る学校」の実現をめざして、教育課程外となる放課後に、地域の方々の力を借りて、生徒の学びや居場所づくりの支援をする。

【活動日・場所】 週一回程度、放課後、図書室を中心

★学校支援の充実★

【活動内容】

- (1) 補充学習等の学習支援(教科学習を苦手としている生徒を中心とした支援)
- (2) 学習支援ではなく、図書室に居ていただき、可能な時には、生徒の思いや悩み等を聞いていただくなど、生徒の心の居場所づくりの支援。



2月に行う第3回学校運営協議会で、来年度に向けて、活動のさらなる充実や学校教育目標について、意見交流を行う予定。

CSの設置が努力義務化(平成29年4月)され、現在の全国のCSの数は、11,856と増え続けています。CSの普及が進む中で、学校と地域が互いにパートナーとして「Win=Win」の関係であり続けるためには、安定的にCSに参画する人材を確保したり、学校と地域との連携・協働の関係を維持・発展したりするといった視点が必要であるといわれます。言い換えると「持続可能性」のための視点です。子どもの学びや学校教育活動を通じて多くの人に関わることを大切にしながら、人と人がつながり続ける。いかにつながるか、つながり続けられるかが、「地域とともにある学校づくり」の成功の鍵だと思います。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み=コミュニティ・スクール